

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 5 区分
 【発行日】平成 17 年 10 月 20 日 (2005.10.20)

【公開番号】特開 2000-27090 (P2000-27090A)
 【公開日】平成 12 年 1 月 25 日 (2000.1.25)
 【出願番号】特願 平 10-193905
 【国際特許分類第 7 版】

D 2 1 F 7/08
 D 0 3 D 1/00
 D 0 3 D 11/00
 D 2 1 F 7/10

【F I】

D 2 1 F 7/08 Z
 D 0 3 D 1/00 D
 D 0 3 D 11/00 Z
 D 2 1 F 7/10

【手続補正書】
 【提出日】平成 17 年 6 月 30 日 (2005.6.30)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

耳部に 1 つのループを構成する対の緯糸と、該緯糸が打込まれる経糸とで製織され、前記ループ内の耳糸を引き抜くことにより非無端状とすることの出来る袋状の緯二重織の基布を、前記ループを構成する緯糸と、基布端部の耳糸を除く 3 本の経糸とによって平織を含まない組織としてなることを特徴とするシーム付きオープンエンドフェルト。

【請求項 2】

バットを、基布の両面又は片面にニードリングにより一体に絡合してなる請求項 1 記載のシーム付きオープンエンドフェルト。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 1 9
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【0 0 1 9】

【課題を解決するための手段】

請求項 1 記載のオープンエンドフェルトは、耳部に 1 つのループを構成する対の緯糸と、該緯糸が打込まれる経糸とで製織され、前記ループ内の耳糸を引き抜くことにより非無端状とすることの出来る袋状の緯二重織の基布を、前記ループを構成する緯糸と、基布端部の耳糸を除く 3 本の経糸とによって平織を含まない組織とした。

請求項 2 記載のオープンエンドフェルトは、請求項 1 記載のシーム付オープンエンドフェルトにおいてバットを、基布の両面又は片面にニードリングにより一体に絡合してなる

9—

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 0

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 2 0 】

【発明の実施の形態】

本発明の実施の態様を以下説明する。

図 5 に緯二重織の組織図を示す。図 5 の組織図は、図 1 の組織図の経系 P 3 , P 4 , P 5 , P 6 を除いた組織である。表表の組織図である図 6 A において、地の部分である経系 P 9 , P 1 1 , P 1 3 , P 1 5 と打ち込み系 # 3 , # 7 , # 1 1 , # 1 5 によって織られた部分には従来の様な平織が存在するが、経系 P 1 , P 7 , P 9 と打ち込み系 # 3 , # 7 , # 1 1 , # 1 5 とによって織られた部分には平織は存在しない。耳部経系 3 本分 (P 1 , P 7 , P 9) について説明すると経系が緯系の上にある箇所数は 3 箇所、従来方法の図 2 A と比べ同じ数であるが、その部分に平織は存在しない。3 箇所経系が打ち込み系の上にくる、即ち緯系は織り込まれるが、その部分で平織となっておらず、それ故、本発明フエルトの組織図を示す図 6 , 7 は改善前の組織図を示す図 2 の平組織による緯系への応力と比べ格段に緩和され、製織後のループの向きをほぼ均一にすることができた。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 3 0

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 3 0 】

【発明の効果】

本発明のオープンエンドフエルトは、耳部に 1 つのループを構成する対の緯系と、該緯系が打込まれる経系とで製織され、前記ループ内の耳系を引き抜くことにより非無端状とすることの出来る袋状の緯二重織の基布を前記ループを構成する緯系と基布端部の耳系を除く 3 本の経系とによって平織を含まない組織とすることによって、シーム部の緯系によるループが経系に対し垂直となる仮想平面上に位置するようになり、各緯系のループが平行した状態で並びかつ、ループ形状も円に近い状態で安定させることが出来るためにマシンへ掛け入れ後、両端ループを交互に噛み合わせ易く、噛み合わされたループが均一に連続しているので、ピンシームの挿通を行う際に極めて容易に短時間に作業が行うことが出来た。